

# KANSAI ウオーク2025

11月29日(土)

第4回大会 滋賀・大津宮エリア

遷都…667年

【コース監修】

北川 央 (九度山・真田ミュージアム名誉館長)

★MAP上の二次元コードで  
グーグルMAPをご覧いただけ  
ます。  
★コース上の寺院・神社へ  
おまいりされない方は、  
境内に入らず前をお通り  
ください。

大会途中で棄権したり、救護を要する時は…

  大会本部 (Central Site)  
救護 (First Aid)

TEL

**080-8506-5200**

この電話は大会当日のみ有効です



START・GOAL 大津港シンボル緑地公園

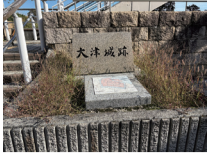
## スペシャルコース (約12km)

START 大津港シンボル緑地公園 → 1 大津城跡 → 2 本願寺近松別院 (ほんがんじちかまつべついん) → 3 近松寺 (こんしょうじ) → 4 小関越の道標 → 5 等正寺 → 6 長等神社 → 7 琵琶湖疏水 → 8 園城寺 (三井寺) → 9 円満院門跡・大津絵美術館 → 10 大津市歴史博物館 → 11 新羅善神堂 → 12 弘文天皇 (大友皇子) 陵 → 13 近江大津宮錦織遺跡 → 14 近江神宮 → 15 福王寺古墳群 → 16 大伴黒主神社 → 17 南滋賀廃寺 → 18 びわ湖大津館 → GOAL 大津港シンボル緑地公園

## ファミリーコース (約8.6km)

START 大津港シンボル緑地公園 → 1 大津城跡 → 7 琵琶湖疏水 → 8 園城寺 (三井寺) → 9 円満院門跡・大津絵美術館 → 10 大津市歴史博物館 → 12 弘文天皇 (大友皇子) 陵 → 13 近江大津宮錦織遺跡 → 14 近江神宮 → 18 びわ湖大津館 → GOAL 大津港シンボル緑地公園

## 1. 大津城跡



明智光秀の居城であった坂本城にかわる城として、羽柴（のち豊臣）秀吉の命により、天正14年（1586）に浅野長吉（のちの長政）が築いた。現在、城跡碑の建つあたりが本丸の跡で、城域は広大であったと考えられる。ほとんど痕跡は残っていないが、昭和55年（1980）に城郭の石垣と思われる遺構が発掘された。慶長5年（1600）関ヶ原合戦の際には、城主の京極高次（淀殿の妹お初の子）が徳川家康方の東軍に味方して、大津城に籠城し、毛利元康・立花宗茂ら西軍の大軍相手に戦った。結局、高次は9月15日に降伏したが、この日が関ヶ原本戦の当日であったため、高次が毛利元康・立花宗茂らの本戦参戦を食い止めた形になった。合戦後には、徳川家康がこの城で戦後処理を行った。翌慶長6年、大津城は廃城となって建物は解体され、新たに築かれた膳所城や彦根城に移築された。現在の彦根城の天守（国宝）は、この大津城の天守を移したものとされ、調査の結果、もともとは五階四重であった天守を、移築に際し、三重三階に切り詰めたことが判明した。

## 4. 小関越の道標



国道（西近江路）から分かれて藤尾で東海道に合流する約5kmの道は東海道の間道として「小関越」と呼ばれる。この道標は、小関越から園城寺（三井寺）へ向かう道の分岐点に立つ。三面に「左三井寺 是より半丁（約50メートル）」「右小関越三条 五条いまく満（今熊）京道」「右三井寺」と刻まれている。三井寺は西国三十三所観音巡礼の第14番札所、今熊野観音寺は第15番札所であるから、この道標が、西国巡礼の巡礼者向けに建てられたものであることがわかる。大津市指定有形民俗文化財。

## 7. 琵琶湖疏水



琵琶湖疏水とは、琵琶湖から京都へと水を運ぶ人工の運河で、滋賀県大津市観音寺から京都市伏見区堀詰町までの全長約20kmが「第1疏水」、第1疏水の北側を全線トンネルで並行する全長約7.4kmが「第2疏水」、京都市左京区の蹴上付近から分岐し北白川に至る全長約3.3kmの「疏水分線」などで構成される。明治14年（1881）第3代京都府知事に就任した北垣国道によって計画され、当時の京都府の年間予算の2倍にあたる莫大な工事費を要する前代未聞の大事業には、工部大学校（現在の東京大学工学部の前身）を卒業したばかりで、当時21歳の田邊朝郎が工事担当者として迎えられ、欧米の測量術を学んで実績を積んでいた、当時33歳の島田道生が精密な測量図を作成し、明治18年（1885）に工事が開始された。延べ400万人の作業員を動員し、およそ5年にも及ぶ難工事の末、明治23年（1890）に第一疏水が完成した。当時の日本では、大規模な土木工事は外国人技術者の設計監督に委ねるのが普通だったが、琵琶湖疏水の建設は、設計から施工まですべての工程を日本人の手で担った最初の事例となった。第一疏水を通じて送られて来る水は、水車動力、舟運、灌漑、庭園用水など、さまざまな目的に利用されたが、とりわけ水力発電は京都の経済や産業を進展させ、人々の生活文化の向上に大きく貢献した。平成8年（1996）に第一疏水関連施設12ヶ所が国の史跡に指定され、平成19年（2007）には南禅寺水路閣・蹴上インクライン・蹴上浄水場・蹴上発電所などが経済産業省の近代化産業遺産に認定され、さらに令和2年（2020）には「京都と大津を繋ぐ希望の水路 琵琶湖疏水～舟に乗り、歩いて触れる明治のひととき～」として、日本遺産に認定された。そして令和7年（2025）8月27日（水）の官報告示により、第一隧道・南禅寺水路閣・インクラインなど5ヶ所が国宝に、大津閘門および堰門、大津運河など24ヶ所が重要文化財に指定された。

## 9. 円満院門跡・大津絵美術館



寛和3年（987）村上天皇の皇子・悟門法親王（ごえんぼっしんのう）が創建した門跡（もんぜき）寺院。聖護院・実相院とともに天台宗門派の三門跡の一つ。戦後、園城寺（三井寺）から分かれ単立寺院となる。宸殿は桃山時代の豪壮な建物で重要文化財。また庭園は、広大な敷地に池や石組などが配され、国の名勝・史跡に指定されている。境内には大津絵美術館が設けられ、十三仏、鬼の念仏、藤娘、青面金剛など、大津絵を代表する図柄の作品が、その他の寺宝とともに展示されている。有料（大人500円、高校生300円、中学生以下無料）

## 12. 弘文天皇（大友皇子）陵



大友皇子は天智天皇の第一皇子で、大化4年（648）に生まれ、「伊賀皇子」と呼ばれた。671年、わが国最初の太政大臣に任ぜられた。同年、天智天皇が崩御するや、左大臣蘇我臣赤兄、右大臣中臣連金らとともに近江朝廷の政務をとったが、翌年の壬申の乱で、天智天皇の「皇太弟」であった大海人皇子（おおあまおうじ、のちの天武天皇）と皇位を争って敗れ、自ら縊死した。文武両道にすぐれ、邸宅に百済から亡命した学者を招いて賓客としたといひ、奈良時代の漢詩集「懐風藻」に漢詩二首が収められている。「弘文天皇」の号は明治3年（1870）に追贈されたもの。御陵の「長等山前陵（ながらのやまさきのみささぎ）」は、大津市役所の西側に位置する。

## 15. 福王寺古墳群



福王寺神社の境内にある古墳時代後期（6世紀後半）の群集墳。福王寺神社は、平安時代前期から中期にかけての貴族・歌人である紀貫之（きのつらゆき）を祭神とする。この古墳群は横穴式石室をもつ15基の円墳からなる。発掘調査された7基は直径10メートル前後で、4基からミニチュア炊飯型土器が出土した。石室が露出しており、今も見る事ができる。

## 2. 本願寺近松別院（ほんがんじちかまつづいん）



浄土真宗本願寺派の本山・西本願寺の別院。寛正6年（1465）、京都・東山の太谷にあった本願寺が比叡山延暦寺の衆徒によって破却の憂き目に遭い（真正の法難）、本願寺8世の蓮如は湖南地方に避難した。文明元年（1469）、当時、延暦寺と対立していた園城寺（三井寺）から同寺五別所の一つ近松寺の寺領を分与された蓮如は近松山願証寺を創建し、当初は長男の順如、その死後は6男の蓮淳が住職を務めた。これが近松別院の始まりで、蓮如は、ここに宗祖親鸞の真影（木像）を安置したため、願証寺は事実上の本山となった。この間、蓮如は越前・吉崎の地を拠点に北陸地方で布教を進め、文明12年（1480）には京都郊外の山科に本願寺が再建されたため、親鸞の真影も山科に遷座した。昭和20年（1945）7月に、陸軍病院保全のため、強制疎開となり、本堂などが解体されたが、昭和56年（1981）、滋賀教区全域の懇念により再建・復興された。なお、「近松山願証寺」の寺号は大阪府八尾市の久宝寺御坊に継承され、戦前まで近松別院の法要は久宝寺御坊の住職が勤めていた。久宝寺御坊の住職は、近代以降、「近松」を苗字としている。久宝寺御坊は本願寺宗家（大谷家）の親族が住職を務める連枝寺院で、久宝寺御坊からは歴代の本願寺宗主（門主）を何人も輩出している。

## 5. 等正寺



真宗大谷派の寺。もとは天台宗の寺として開かれたと伝わる。寛正6年（1465）、京都・東山の太谷にあった本願寺が比叡山延暦寺の衆徒に焼き討ちに遭い、本願寺8世の蓮如は園城寺（三井寺）に宗祖親鸞の真影（木像）を預け、北陸地方に布教の旅に出かけたと伝えられる。応仁3年（1469）、蓮如は大津に戻り、三井寺に真影を戻して欲しいと掛け合ったが、真影のおかげで参拝客の増えた園城寺はこれに応じず、「人間の生首を持ってきたならば交換してやる」と難題をふっかけた。蓮如に深く帰依していた堅田の漁師・堅田源兵衛はこれを聞き、自分の首を切り落として、息子がその首を差し出した。園城寺側はたいそう驚き、真影を返却したと伝わる。本堂内の厨子には堅田源兵衛のものといわれる首が収められている。

## 8. 園城寺（三井寺）



天台宗門派の総本山。壬申の乱に敗れた大友皇子（弘文天皇）の霊を弔うため、大友皇子の皇子である大友与多王が「田園城邑（じょうゆう）」を寄進して寺を創建し、天武天皇から「園城」という勅額を賜ったことが園城寺の始まりと伝わる。天智・天武・持統の3人の天皇誕生の際、産湯に用いられたとされる霊泉が湧くことから「御井の寺」と呼ばれたという。現在、金堂西側にある「閻伽井屋」から湧き出る清水がその霊泉であると伝えられる。貞観年間（859～877）、第5代天台座主（ざす）・智証大師円珍により、天台別院として中興された。円珍の死後、円珍の門流と慈覚大師円仁の門流による対立が激化し、正暦4年（993）円珍門下は比叡山を下りて園城寺に入った。以後、比叡山延暦寺を「山門」、園城寺を「寺門」と称し、天台宗は二分されることになった。園城寺は、延暦寺・東大寺・興福寺とともに、「本朝四箇大寺」の一つに数えられ、国宝10件（64点）、重要文化財42件（720点）をはじめとする多くの文化財が伝来する。また、観音堂は西国巡礼の第14番札所になっている。有料（大人600円、中高生300円、小学生200円。文化財収蔵庫は大人300円、小中高生無料）

## 3. 近松寺（ごんしょうじ）



近松寺は園城寺（三井寺）の五別所の一つで、平安時代の延喜4年（904）、天台密教の大成者である安然によって創建され、当初は現在の長等公園東側、園城寺南院に位置し、本堂、法華堂、三重塔などの伽藍を有した。江戸時代の元禄2年（1689）には音曲諸芸道の神である関蟬丸神社が園城寺の支配下に入り、近松寺が管轄することとなった。そのため、関蟬丸神社の免許を有する芸能者たちが近松寺を拠点に全国を脚して活動するようになり、近松寺は芸能者と深いかかわりを持つ寺院として有名になった。江戸時代の劇作家として著名な近松門左衛門（本名：杉森信盛）が、寛文12年（1672）に近松寺に滞在し、約3年間を過ごしたことから、近松門左衛門ゆかりの寺としても知られる。近松門左衛門の「近松」はこの寺に由来するとも伝えられる。現在の本堂は享保元年（1716）に再建されたもので、千手観音が本尊として祀られている。

## 6. 長等神社



天智天皇が大津京鎮護のため長等山の岩座谷に須佐之男命を祀ったのが始まりと伝わる。貞観2年（860）智証大師円珍が園城寺の鎮守社とし、山王権現を合わせて祀り、天喜2年（1054）には庶民が参詣しやすいうように長等山の山上から現社地に遷った。明治37年（1904）建立の楼門には、細部にわたり、中世の古い様式が見事に生かされている。

## 10. 大津市歴史博物館



大津の文化財や歴史資料を収集、保管、調査研究し、公開している。大津の歴史と文化を映像や模型でわかりやすく紹介した常設展示のほか、さまざまなテーマの企画展を随時開催している。平成2年（1990）の開館。山の腹にあるため、エントランスや2階の展望ロビーから琵琶湖を一望することができる。有料（常設展示観覧料大人330円、高校生・大学生240円、小中学生160円）

## 13. 近江大津宮錦織遺跡



近江大津宮は、667年に天智天皇が飛鳥から遷都した宮都。672年の壬申（じんしん）の乱によって近江朝廷側が敗れ、廃棄されたため、わずか6年という短期間の都であった。宮殿の所在地は長らく不明であったが、昭和49年（1974）、滋賀県教育委員会が錦織地区で実施した発掘調査によって内裏南門と考えられる巨大な柱穴を発見し、その後の調査で宮跡の中枢部の遺構が見つかり、昭和54年（1979）、国の史跡に指定された。現在までに内裏正殿・回廊・堀・倉・石敷き溝等の遺構が確認されており、順次追加指定が行われている。

## 11. 新羅善神堂



園城寺（三井寺）の鎮守社のひとつで、北院伽藍の中心建築。現在の建物は、足利尊氏によって貞和3年（1347）に再興されたもの。檜皮葺の屋根が流れるような美しさをもつ社殿建築で、「流造」の代表的遺構として知られる。堂内の須弥壇には素木の厨子が安置され、園城寺の開祖・智証大師円珍ゆかりの新羅明神坐像（国宝）が祀られている。平安時代、河内源氏の武将・源頼義の三男義光は、新羅明神の社前で元服し、「新羅三郎義光」と称した。義光の子孫（義光流源氏）は、甲斐の武田氏、常陸の佐竹氏、陸奥の南部氏、信濃の小笠原氏など、各地で在地の武士団として発展した。新羅三郎義光の墓は、新羅善神堂裏手の山中にある。

## 14. 近江神宮



近江大津宮に遷都した第38代天智天皇を祭神とし、皇紀2600年記念事業の一環で、昭和15年（1940）に創建された。広大な森に囲まれた境内には、朱塗りの門、近江造の本殿などが荘厳な雰囲気をもっている。天智天皇は、日本で初めて漏刻（ろうこく、水時計）を作ったことから、時計の始祖として知られ、境内には時計館宝物館や漏刻・日時計も設けられている。百人一首かるた名人戦でも知られ、競技かるたの聖地となっている。映画「ちはやふる」の舞台としても有名。（時計館宝物館は大人300円、小中学生150円）

## 16. 大伴黒主神社（おおともくろぬしじんじや）



祭神の大伴（大友）黒主は、大友皇子（弘文天皇）の皇子で「大伴」姓を賜った大友与多王の子孫と伝えられる。「大友」の名は、当地の旧名滋賀郡大友郷に由来する。大友氏はこの大友郷を本貫とする氏族で、黒主も滋賀郡司をつとめたことがあり、「滋賀の黒主」とも称された。また園城寺（三井寺）の神記別当をつとめた。黒主は平安初期の代表的歌人で、いわゆる六歌仙の一人として知られる。延喜17年（917）宇多天皇の石山寺参詣の際、「さざら浪 間もなき岸を洗ふめり なぎさよくば 君とまれかし」と歌い、大いに称賛されたという。晩年の黒主は志賀山中で幽栖したと伝えられ、没年は明らかではない。当神社は、黒主の没後、土地の人たちが小祠を建てて祀ったことに始まるという。

## 17. 南滋賀廃寺



大津京関連遺跡の一つとされる寺院跡。昭和初期に大津宮の位置を究明する目的から崇福寺跡とともに発掘調査が実施されて以降、複数回にわたって調査が行われた。飛鳥の川原寺と同じ伽藍配置で、中門を入ると東側に塔、西に西金堂が対峙し、その北側に金堂、講堂が順に並び、講堂を囲むように三方に僧房を配する。金堂・講堂・西金堂・塔跡は瓦積み基壇をもつ。また出土遺物から7世紀後半の白鳳時代から平安時代末期まで存在していたとみられる。現在は一部が公園となり、塔心礎や回廊の礎石が残る。国指定史跡。

## 18. びわ湖大津館



びわ湖大津館は、琵琶湖に隣接する柳が崎湖畔公園のメイン施設。昭和9年（1934）建築の旧琵琶湖ホテルを保存・改修し、湖を見渡せる文化施設として平成14年（2002）に新しく誕生した。建物は、東京歌舞伎座などの設計で名高い故岡田信一郎によるもので、旧琵琶湖ホテルは「湖国の迎賓館」として、昭和天皇やヘレン・ケラー、ジョン・ウェインらの著名人が宿泊し、滋賀県一の格式を誇っていた。現在は、レストランカフェや貸館として営業。また、隣接するイングリッシュガーデンでは、バラをはじめとする四季折々の花が楽しめる。令和7年（2025）に公開された大ヒットした映画「国宝」のロケにも使用された。